



2025年度決算説明会

2026年5月

証券コード

6623

1. 2025年度 決算概要
2. 2026年度 通期業績見通し
3. 株主還元

2025年度 決算概要

2025年度 決算概要

売上高・すべての利益項目で過去最高を更新。

経営環境

電力機器事業 : 送配電会社向け・一般産業向けともに需要が底堅く推移

回転機事業 : 空調市場の回復が緩慢、世界的なBEV需要の伸び悩み

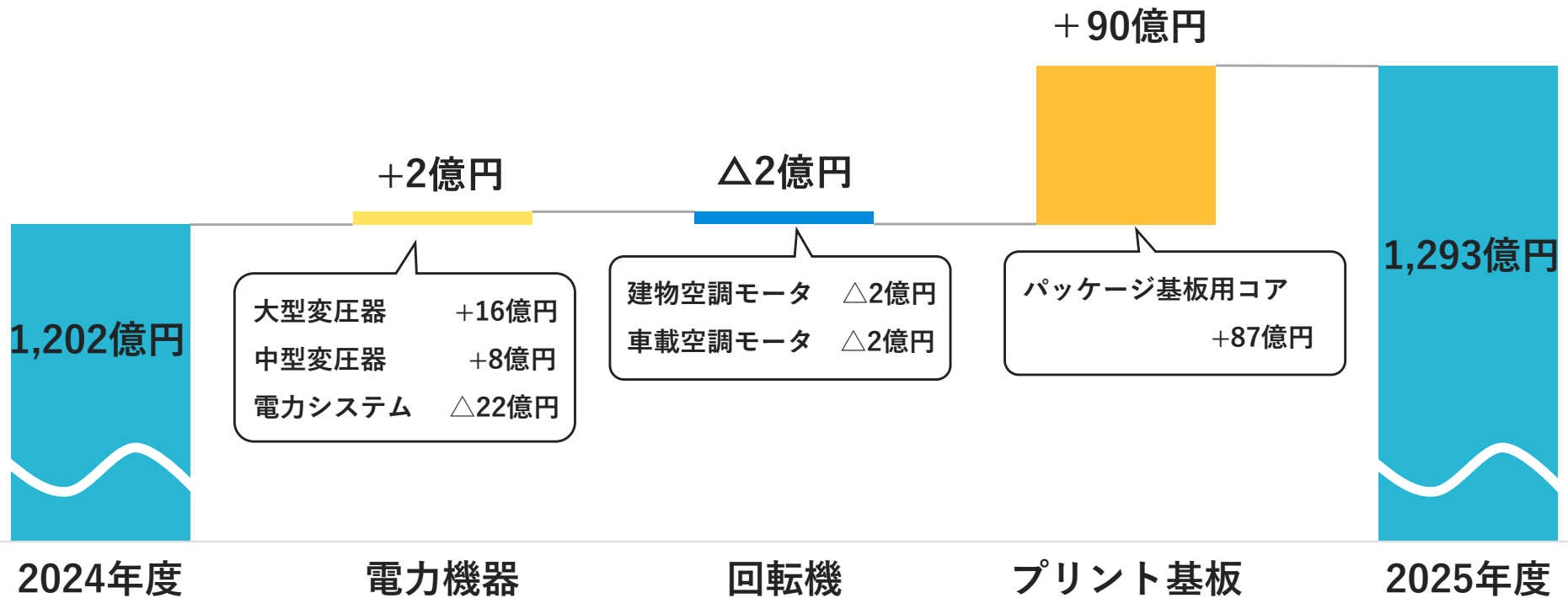
プリント基板事業 : 汎用サーバ市場の回復が想定より遅れるも、生成AI関連の需要拡大が牽引し総じて好調に推移

(単位：億円)

	2024年度 実績(A)	2025年度 実績(B)	利益率	増減率 (B-A)/A	2025年度	
					期初計画(C) (2025年4月30日公表)	達成率 (B-C)/C
売上高	1,202	過去最高 1,293	-	+7.6%	1,280	+1.1%
営業利益	86	過去最高 111	8.6%	+28.7%	77	+44.9%
経常利益	93	過去最高 119	9.2%	+27.9%	76	+56.9%
親会社株主に帰属 する当期純利益	66	過去最高 85	6.6%	+27.6%	53	+60.9%

- 前期比**91億円**の増収。
- 電力機器事業：2024年度の海外向け移動式変電所売上の反動減により減収も、一般産業向け中型変圧器・送配電会社向け大型変圧器などの販売が堅調に推移し増収。
- 回転機事業：中国での建物空調モータおよび国内外の車載空調モータの受注減少により減収。
- プリント基板事業：パッケージ基板用コアの受注の伸びを新発田工場の生産能力増強で対応し、大幅な増収。

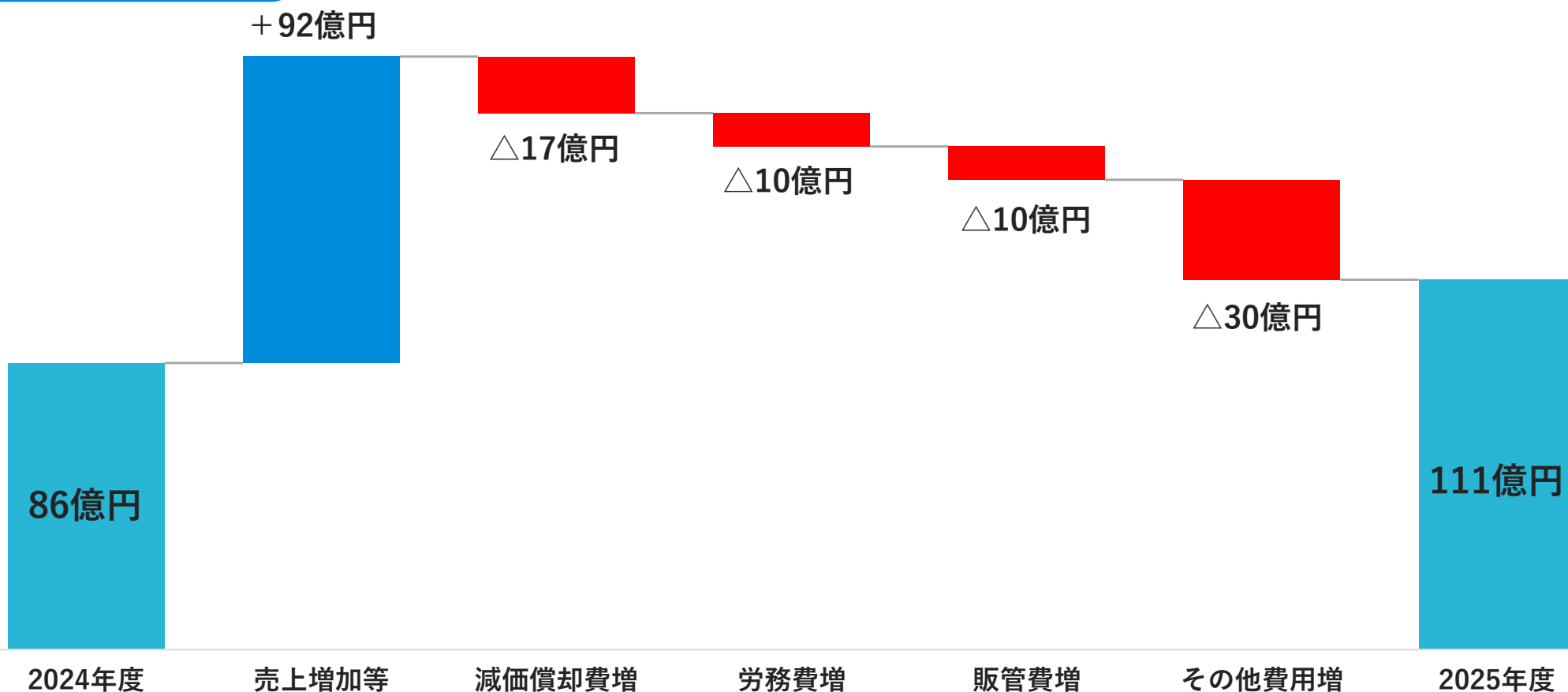
売上高増減

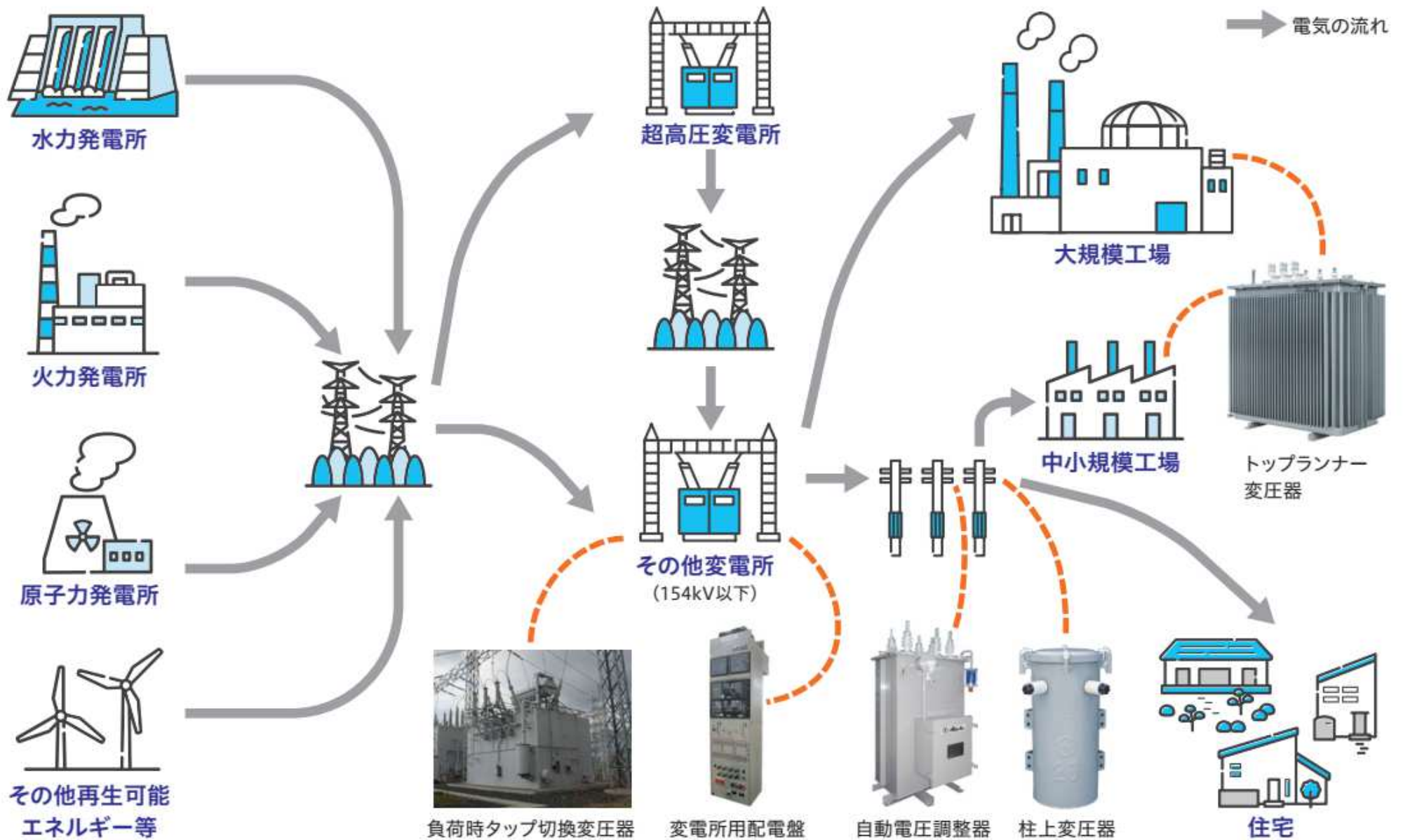


■ 前期比**24億円**の増益。

■ パッケージ基板用コア工場（新発田工場）の順次稼働により減価償却費等固定費が増加したもののプリント基板事業の売上高増や製品構成の変化により増益。

営業利益増減



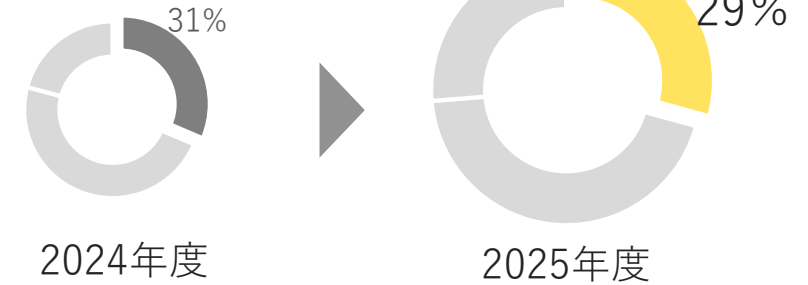


電力機器事業としては増収増益

(単位：億円)

項目	24年度	25年度	増減額	増減率
売上高	377	380	+2	+0.7%
小型変圧器	66	66	+0	+0.0%
中型変圧器	102	111	+8	+8.5%
大型変圧器	32	48	+16	+50.1%
制御機器	70	72	+2	+3.6%
電力システム	57	35	△22	△38.7%
産業システム	9	7	△2	△22.1%
その他	37	37	△0	△1.2%
セグメント利益	44	57	+12	+28.3%

セグメント売上高比率

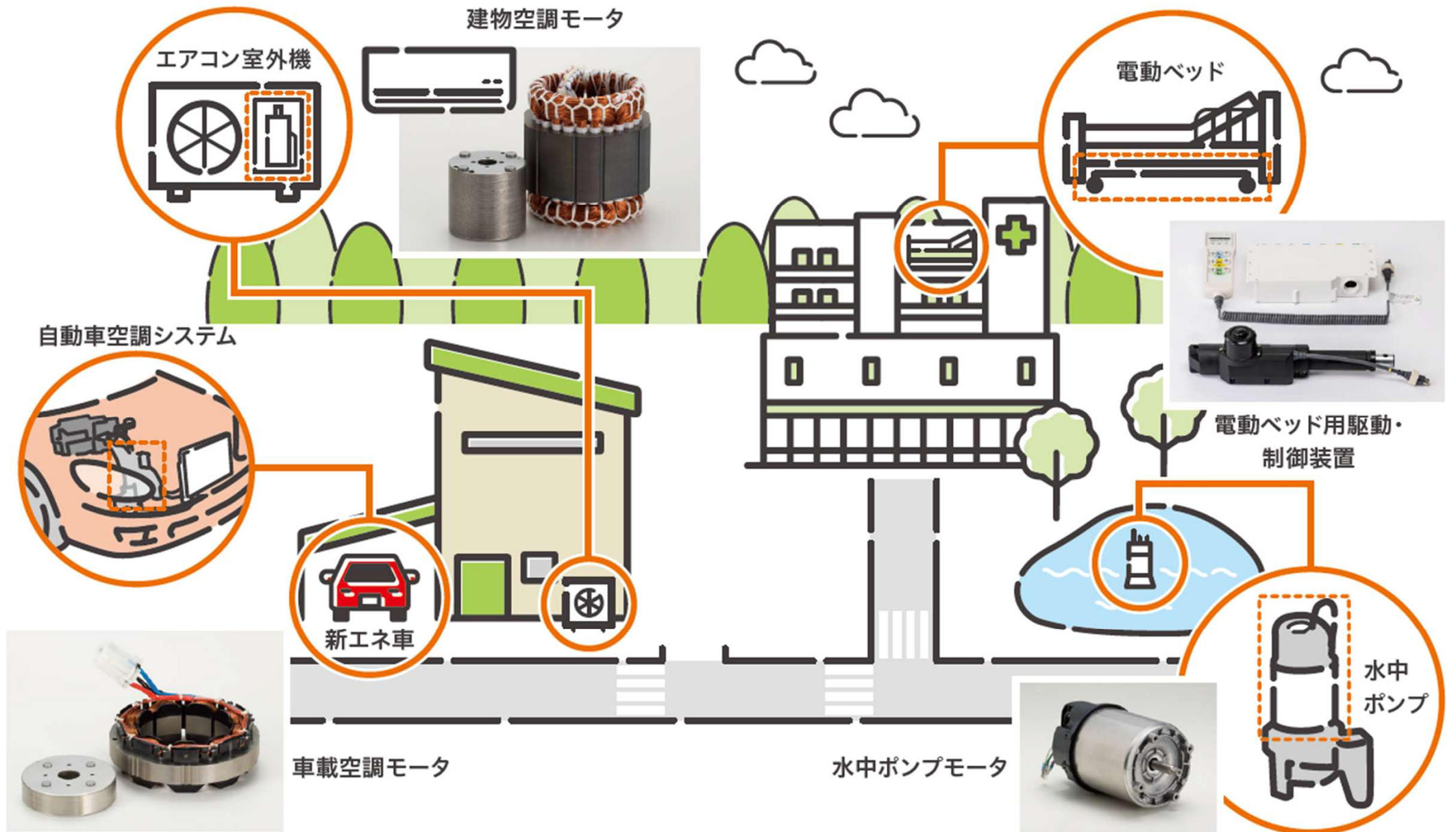


主な顧客

国内一般送配電事業者、一般需要家(工場、ビル等)

2025年度 製品別売上高の状況

- ・ 中型変圧器は、一般産業向けのトップランナー変圧器が第三次判断基準への更新前の駆け込み需要などにより堅調に推移。
- ・ 大型変圧器は、送配電会社向けの負荷時タップ切替変圧器(LRT)などにより増収。
- ・ 電力システムは、前年度の海外向け移動式変電所の反動減により減収。

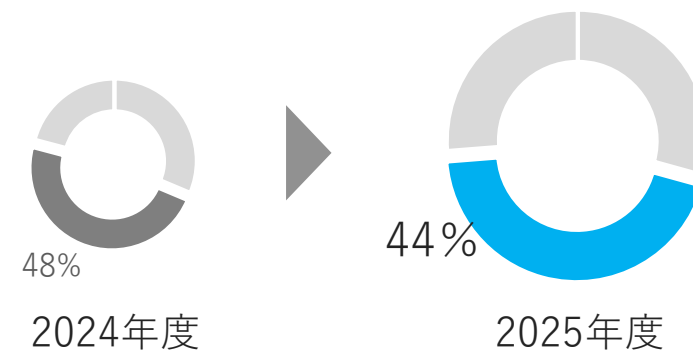


回転機事業としては減収減益

(単位：億円)

項目	24年度	25年度	増減額	増減率
売上高	574	571	△2	△0.4%
建物空調モータ	280	278	△2	△0.8%
車載空調モータ	202	200	△2	△1.1%
モータ応用機器	76	76	+0	+0.3%
その他	14	15	+1	+13.2%
セグメント利益	21	21	△0	△3.0%

セグメント売上高比率

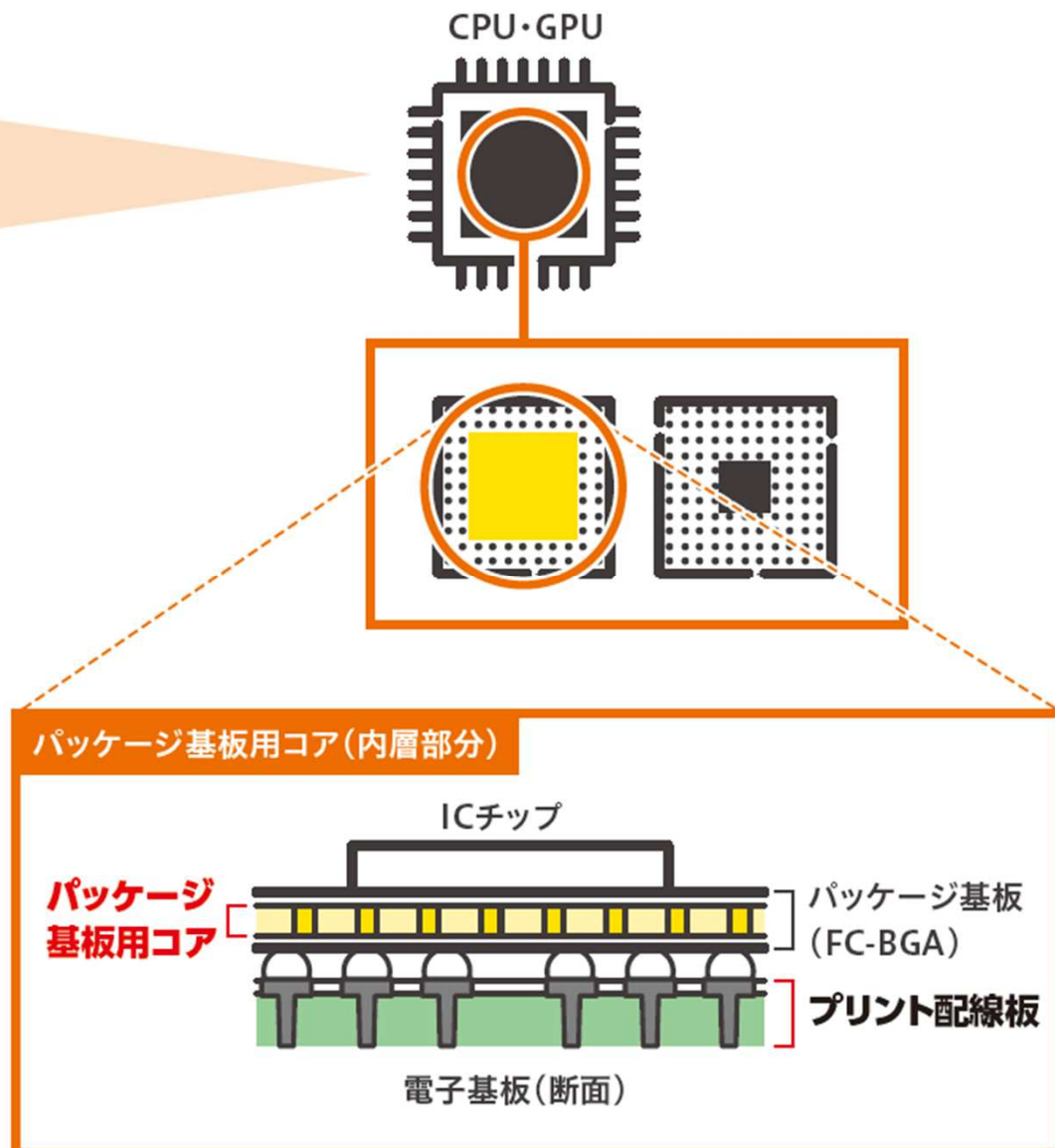
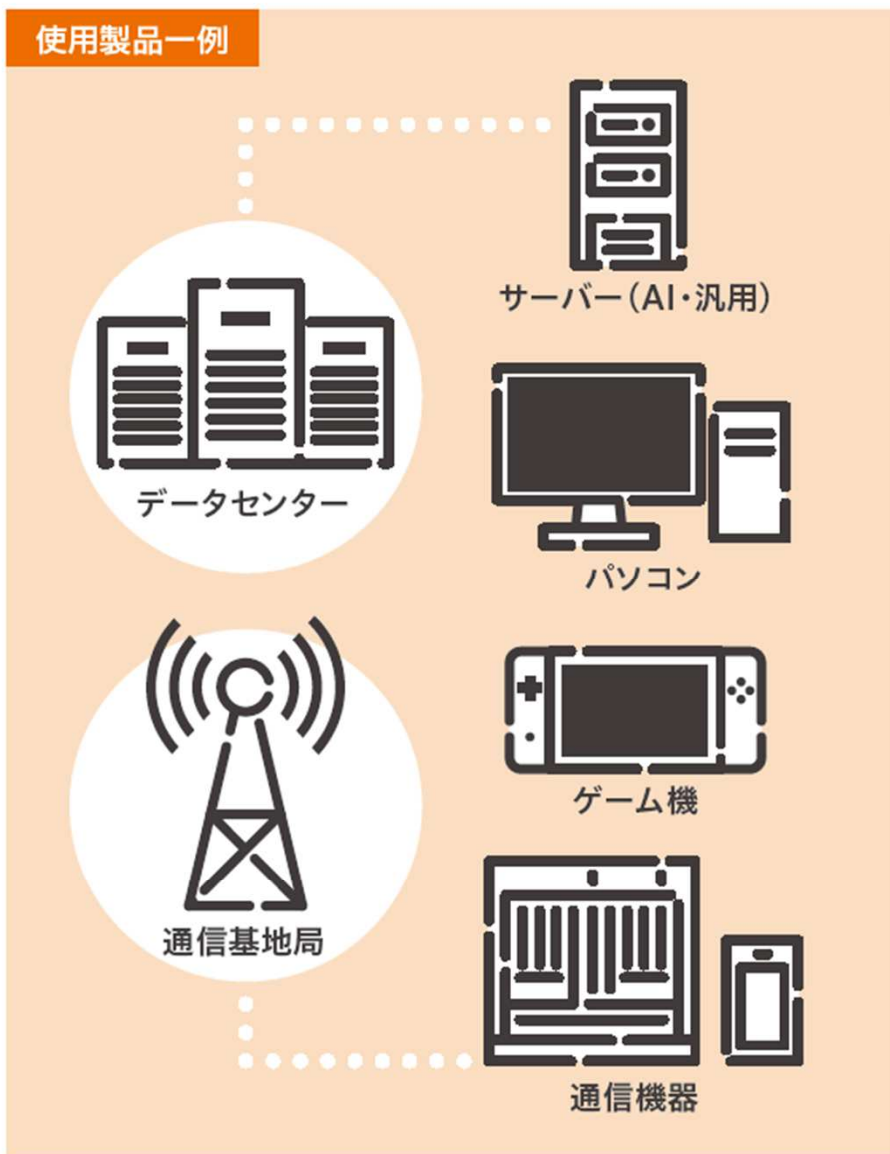


主な顧客

家電メーカー、コンプレッサメーカー、介護機器メーカー、ポンプメーカー

2025年度 製品別売上高の状況

- ・建物空調モータは、中国の景気後退の影響等で減収。
- ・車載空調モータは、中国を除く欧米のBEV需要の急減速により減収。
- ・モータ応用機器は、介護機器需要が投資抑制の影響で減少する一方、ポンプメーカーからの受注が順調に推移し、前年度並み。



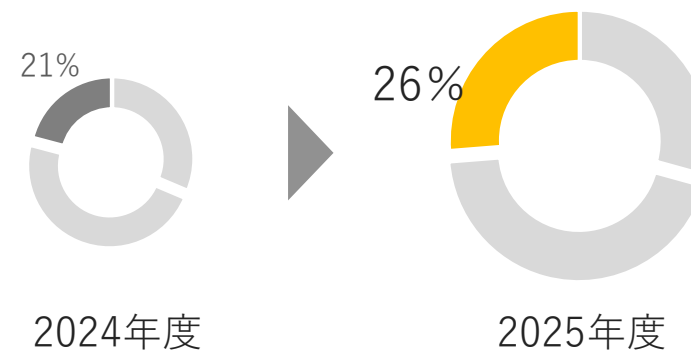
プリント基板事業の業績

プリント基板事業全体で増収増益

(単位：億円)

項目	24年度	25年度	増減額	増減率
売上高	251	342	+90	+36.2%
パッケージ基板 用コア	214	301	+87	+40.6%
一般基板	36	40	+3	+10.0%
セグメント利益	40	57	+16	+40.1%

セグメント売上高比率



主な顧客

パッケージ基板メーカー、FA機器メーカー 等

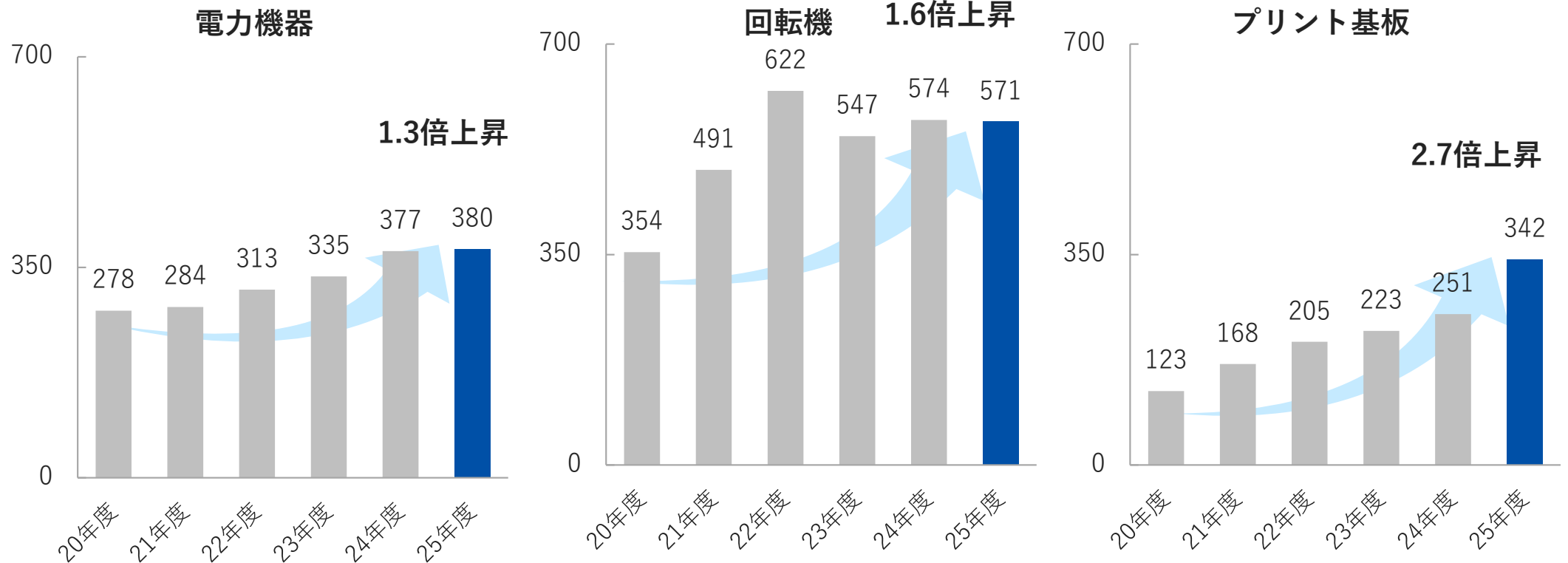
2025年度 製品別売上高の状況

- ・パッケージ基板用コアは、受注の伸びを新工場の生産能力増強で対応し増収。
- ・一般基板は、産業機器向け・FA機器向けなどは底をついて回復傾向。

事業別 売上高推移

- 当社グループは、電力機器・回転機・プリント基板という3つの事業を展開。
それぞれ市場変動の波があるが、異なる事業領域であり、グループ全体としてリスク耐性があることが強み。
- 近年の売上高推移をみると、電力機器事業（変圧器など）が安定的に成長するなか、回転機事業（モータなど）が伸長、プリント基板事業（パッケージ基板用コア）が大幅に事業拡大。
- 連結全体では、2020年度と比較し1.7倍（756億円→1,293億円）に拡大。

(単位：億円)



バランスシート の 状況

- 財政状態は、引き続き健全な状態を維持。
- 自己資本比率は、業績好調により前年度末から3.7%増加し59.6%。

(単位：億円)

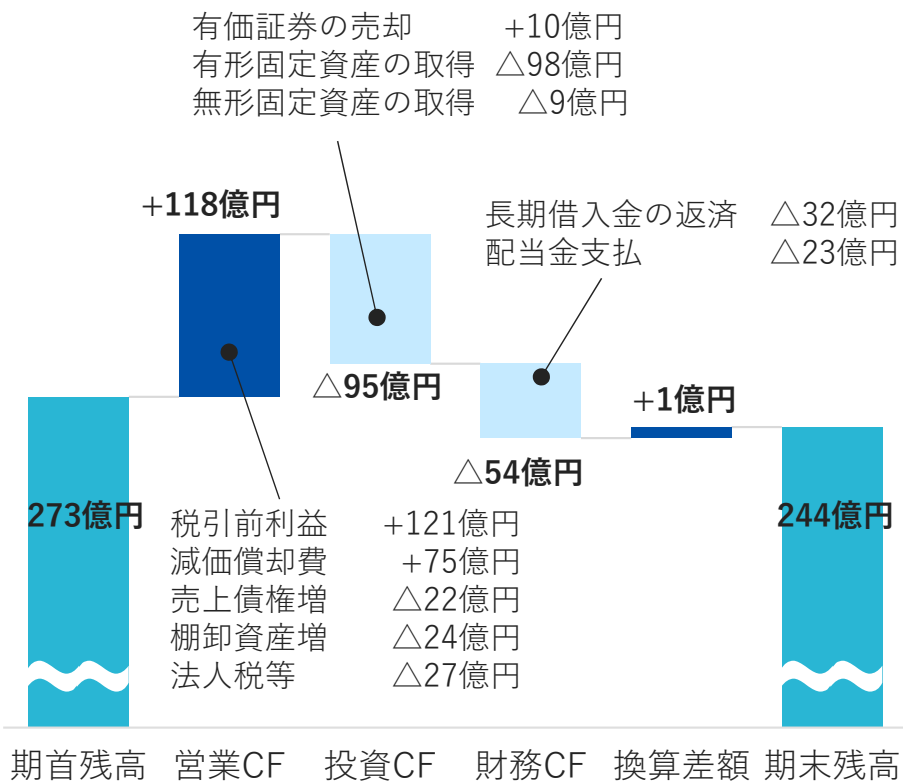
	25/3末	26/3末	増減額
流動資産合計	893	914	+21
現金及び預金	281	253	△28
売上債権	387	416	+28
棚卸資産	199	225	+26
その他	24	18	△5
固定資産合計	525	551	+26
有形固定資産	415	419	+4
無形固定資産	5	14	+8
投資その他の資産	104	117	+13
資産合計	1,418	1,466	+47

	25/3末	26/3末	増減額
負債合計	607	574	△32
仕入債務	244	257	+13
有利子負債	201	171	△29
その他の負債	161	145	△16
純資産合計	811	891	+80
株主資本	728	790	+61
その他包括利益累計額	64	83	+18
非支配株主持分	17	17	△0
負債純資産合計	1,418	1,466	+47

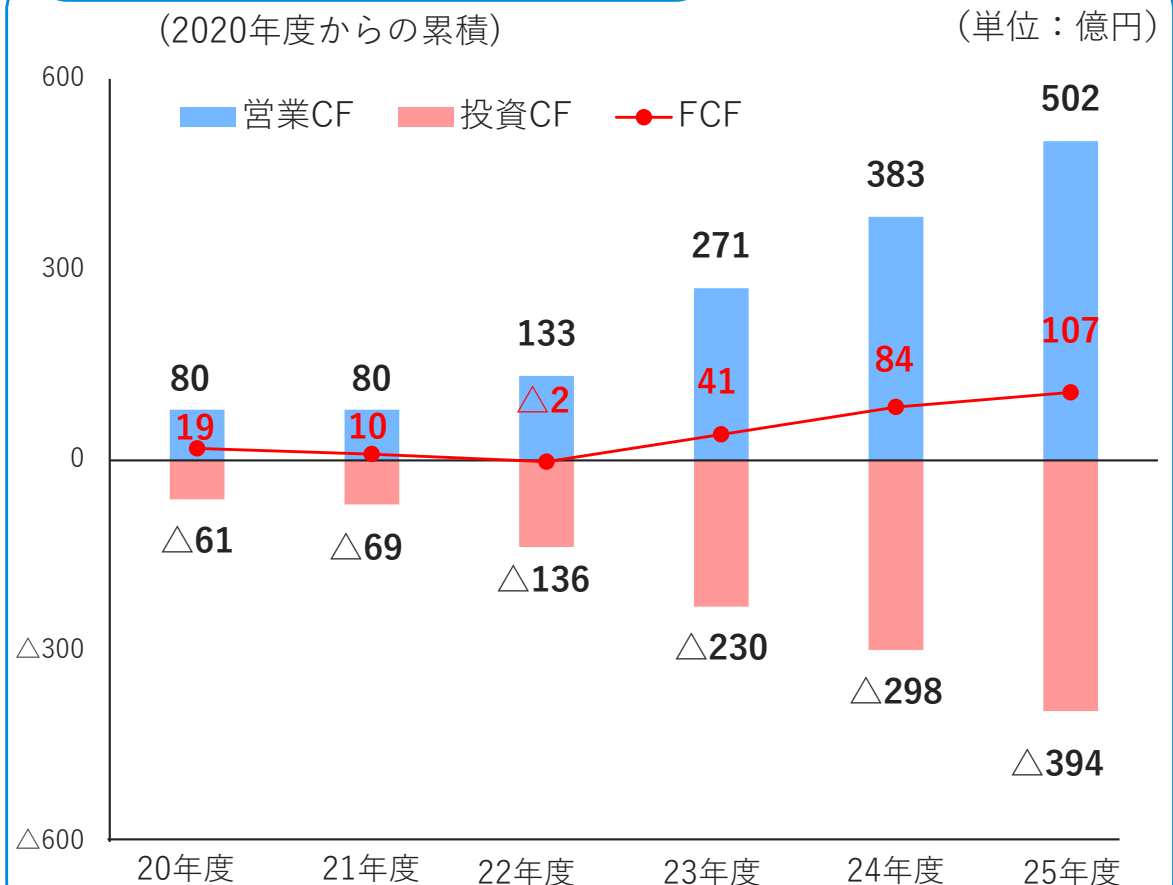
キャッシュ・フローの状況

- 営業CFで118億円の資金を獲得。投資CFはプリント基板事業の設備投資などで95億円支出。財務CFは配当金支払いや有利子負債返済などで54億円支出。
- 期末の現金及び現金同等物残高は29億円減少。
- 過去6年間FCFは順調に推移。

キャッシュ・フローの内容



キャッシュ・フローの累計推移



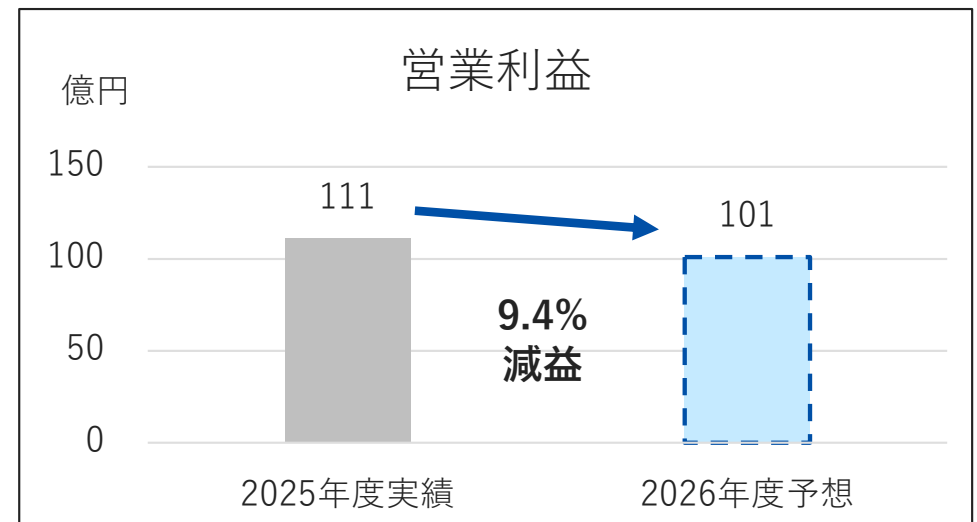
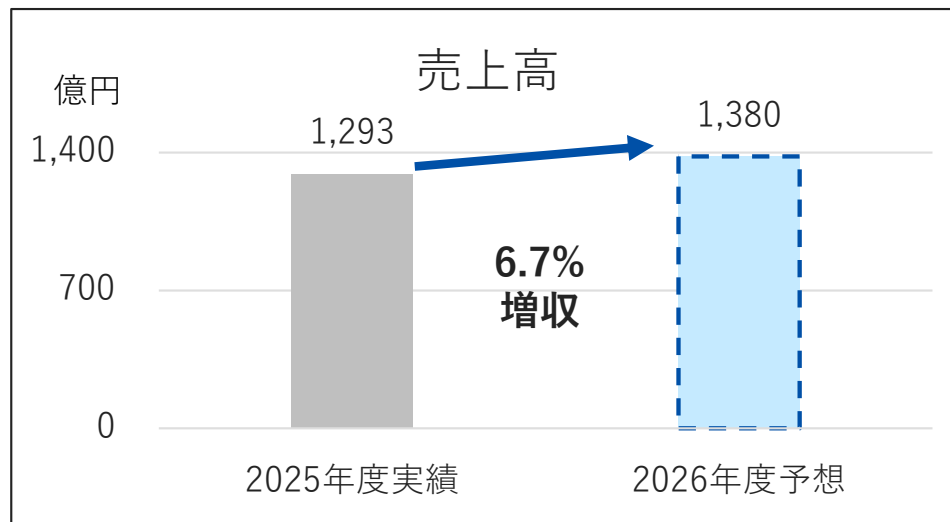
2026年度 通期業績見通し

2026年度 通期連結業績予想

■ 増収減益の予想。プリント基板事業、回転機事業で増収見込みも、減価償却費等の固定費増加や原材料価格の高騰等に伴う原価率上昇を見込み、減益を予想。

(単位：億円)

	2025年度 実績(A)	利益率	2026年度 予想(B)	利益率	増減額 (B-A)	増減率 (B-A)/A
売上高	1,293	-	1,380	-	+86	+6.7%
営業利益	111	8.6%	101	7.3%	△10	△9.4%
経常利益	119	9.2%	104	7.5%	△15	△12.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	85	6.6%	70	5.1%	△15	△17.9%



2026年度 通期業績予想（セグメント毎の概況）



電力機器

業界環境

国内電力需要の増加に伴い、送配電会社向け・一般産業向けともに堅調に推移すると想定される。



当社グループの状況

送配電会社向け	中東情勢の影響が懸念されるものの、国内電力需要の増加に伴い、引き続き、底堅い需要に支えられ、全体として堅調に推移する見込み。
一般産業向け	中東情勢の影響が懸念されるものの、AI普及によるデータセンター新增設を背景に国内電力需要の増加が見込まれる。「2026トップランナー変圧器」は、切替え需要に加え、競業他社の事業撤退に伴う市場環境の変化等により、引き続き堅調に推移する見込み。

回転機

業界環境

中東情勢の長期化による材料の供給途絶や価格高騰などの影響で、世界経済の悪化が懸念される。空調需要については、世界的な地球温暖化による普及率上昇やデータセンター向け冷却関連市場の拡大等に伴い堅調。新エネ車需要については、伸びは鈍化しつつあるも市場規模は拡大。



当社グループの状況

建物空調モータ	国内は堅調も、中国は不動産不況等による景気停滞で先行き不透明な状況。
車載空調モータ	国内ではHEV(ハイブリッド車)需要が堅調。中国では補助金政策などがありBEV需要が堅調。
モータ応用機器	介護用機器およびポンプ用モータは減少傾向。工作機械用モータも伸び悩み。

プリント基板

業界環境

生成AIの普及により拡大したパッケージ基板需要は、今後ロボットや自動運転をはじめとする「フィジカルAI」分野でのさらなる需要拡大が期待される。FA機器向けの一般プリント基板は、回復傾向。



当社グループの状況

パッケージ基板用コア	AI関連によるデータ通信量増により通信・汎用サーバ向け需要は引き続き好調も基板材料の供給逼迫が懸念される。
一般プリント基板	FA機器向け等で回復が見込まれるが、中東情勢の影響による石油化学製品の高騰や供給不足を懸念。

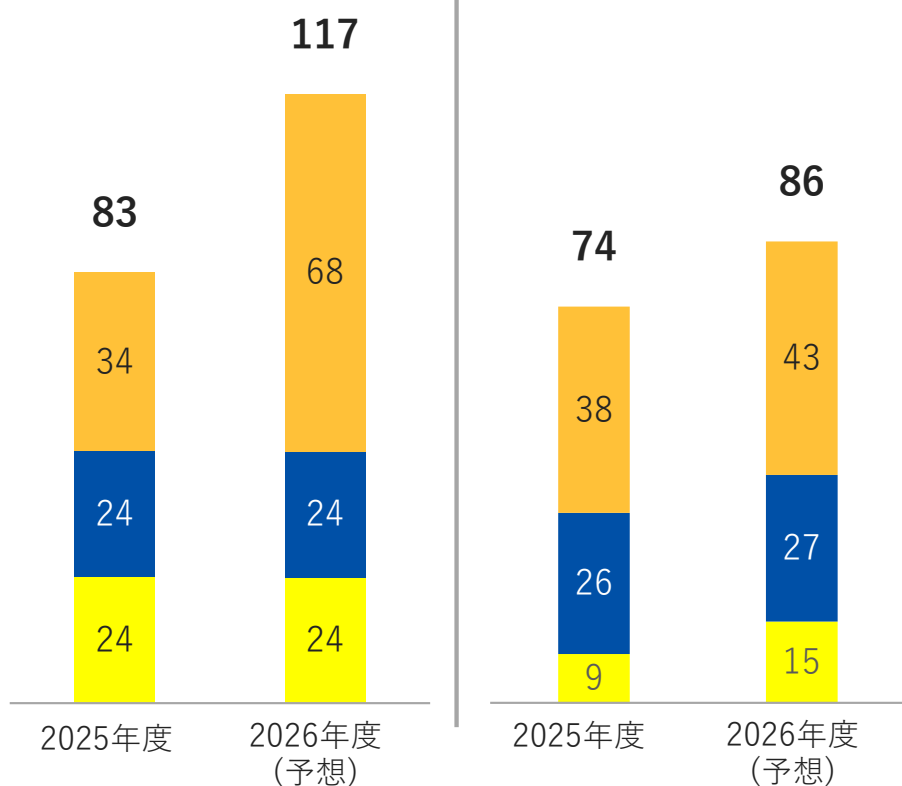
設備投資額および減価償却費

(単位：億円)

■ 電力機器 ■ 回転機 ■ プリント基板

設備投資

減価償却費



(注) 共通部門は各セグメントに配賦

設備投資の内容

2025年度(実績)

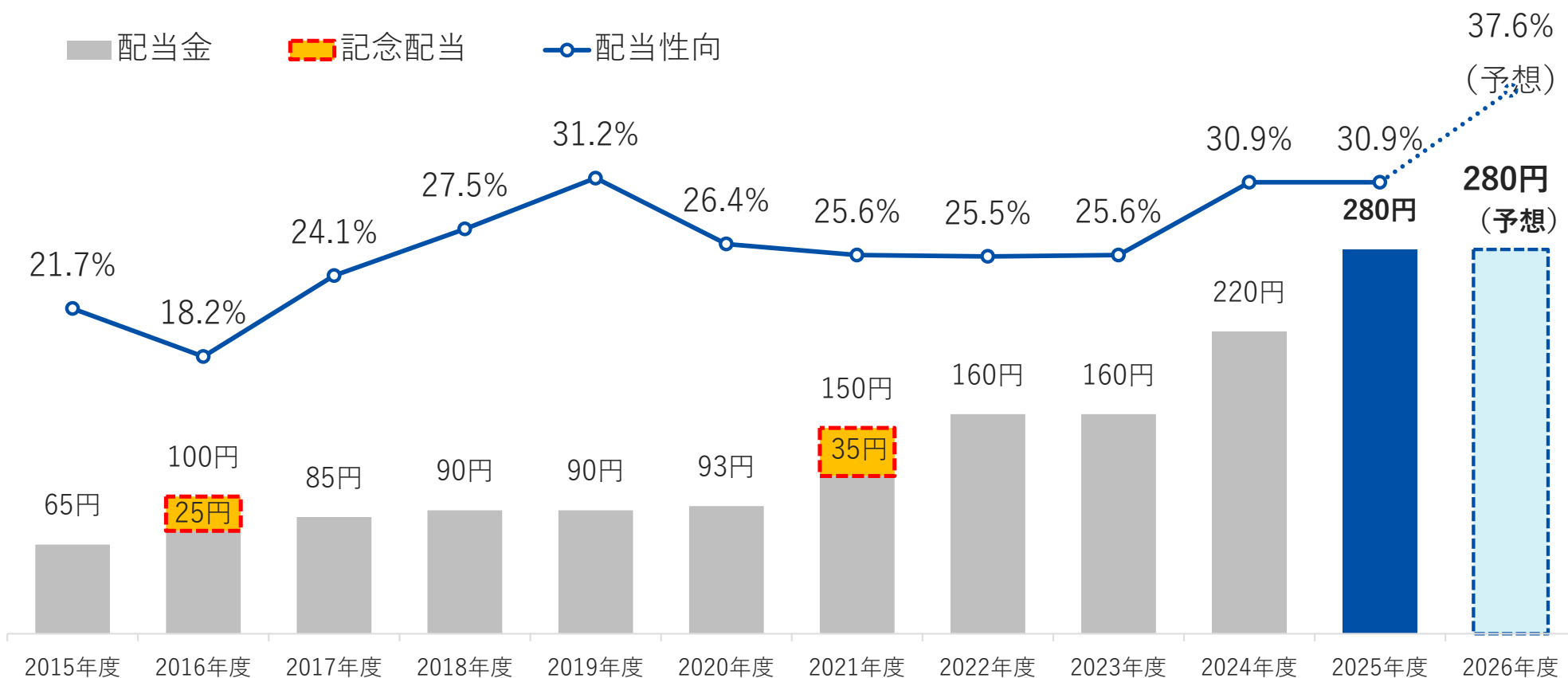
セグメント	総額	主な内容
電力機器	24億円	一般産業向け2026トップランナー変圧器の生産能力増強など。
回転機	24億円	車載空調モータの生産ライン増強など。
プリント基板	34億円	パッケージ基板用コアの第4期生産能力増強投資(82億円)を2023年度下期から進めており、2026年3月末の進捗率は約8割。設備は順次稼働中。この他、高機能コアの量産設備など。

2026年度(予想)

セグメント	総額	主な内容
電力機器	24億円 予想	一般産業向け2026トップランナー変圧器の生産能力増強等を計画。
回転機	24億円 予想	空調(建物・車載)モータの生産設備増強など。実施については、外部環境を見極めながら検討。
プリント基板	68億円 予想	高機能コアの量産設備などを計画。パッケージ基板用コアの第4期生産能力増強投資は、2026年秋頃に設置完了予定。

株主還元

- 株主への安定的な利益還元を経営の最重要政策と位置付け、**連結配当性向の目標を30%以上**とする。
- 2025年度年間配当は**2期連続の増配の280円**（当初予想は220円）。連結配当性向は**30.9%**。
- 2026年度年間配当予想は**280円**。連結配当性向は**37.6%**を見込む。



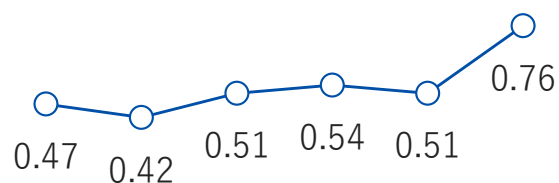
(注) 2016年10月に普通株式5株を1株に併合しております。
 これにより2016年9月末までの1株当たり配当金額については、株式併合後のものと整合をとるため、実績値の5倍で表記しております。

【参考】財務指標（PBRの推移）

- PBRは2025年度後半に入り大きく改善
- ROEは安定的に推移

市場評価

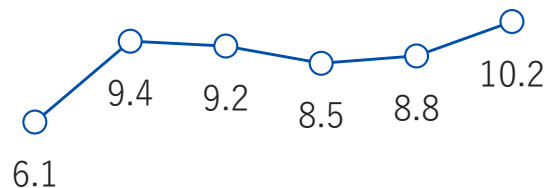
PBR(倍)
(株価純資産倍率)



20年度 21年度 22年度 23年度 24年度 25年度
※ PBRは3月末時点

投資収益性

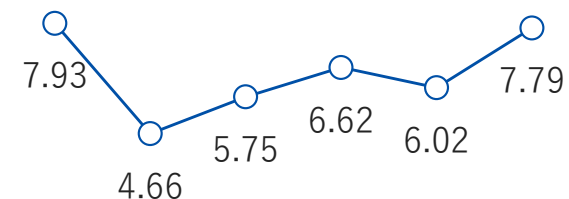
ROE(%)
(自己資本利益率)



20年度 21年度 22年度 23年度 24年度 25年度

成長期待

PER(倍)
(株価収益率)



20年度 21年度 22年度 23年度 24年度 25年度

株価

1株当たり純資産

=

当期純利益

自己資本

× 100

×

株価

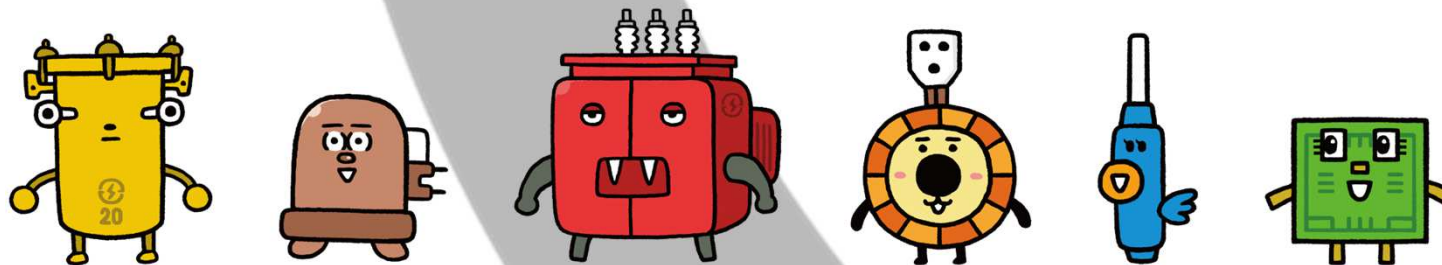
1株当たり当期純利益

企業価値向上に向けた主な取り組み

成長投資：プリント基板事業（パッケージ基板用コア）、電力機器事業（トプルランナー変圧器）、回転機事業（車載空調モータ）など
株主還元：連結配当性向**30%**以上とし、安定的な配当に努める。

愛知電機グループは、1942年の創業以来、
技術へのこだわりと、ものづくりへの情熱を伝承し、
電力インフラや快適な生活をサポートする製品を
提供してきました。

これからも、ものづくりを通じて、
豊かな暮らしと持続可能な社会づくりに貢献する
企業集団を目指してまいります。





お問合せ先
管理本部
経営企画部
広報・IRグループ

TEL 0568-35-1105

<https://www.aichidenki.jp/contact.html>

<注意事項>

本資料の将来計画の数値につきましては、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる可能性があります。